

中部様式
(調査事業)

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要 (全体)

森町地域公共交通会議

令和3年11月22日設置

調査事業 (計画策定) 令和6年3月 地域公共交通計画策定予定

調査の背景および必要性

- 町内には鉄道駅が5駅、民間路線バスが2路線、自主運行バスが3路線、タクシー（町内営業所無）、その他に町内3地区から森町病院を結ぶ「患者バス」、ボランティアによる高齢者向けの移動支援によって、住民の移動が確保されている
- 町内を運行する民間路線バス2路線、自主運行バス3路線の維持費用は増大しており、財政負担を軽減する取り組みが必要
- 一宮地区、園田地区（日中）などには交通空白地域があり、その解消に向けた新たな交通体系の構築が必要
- 町民の移動ニーズや交通事業者の運行意向などを把握し、実現性の高い新たな公共交通の導入の検討に活用する

現行の公共交通ネットワークイメージ

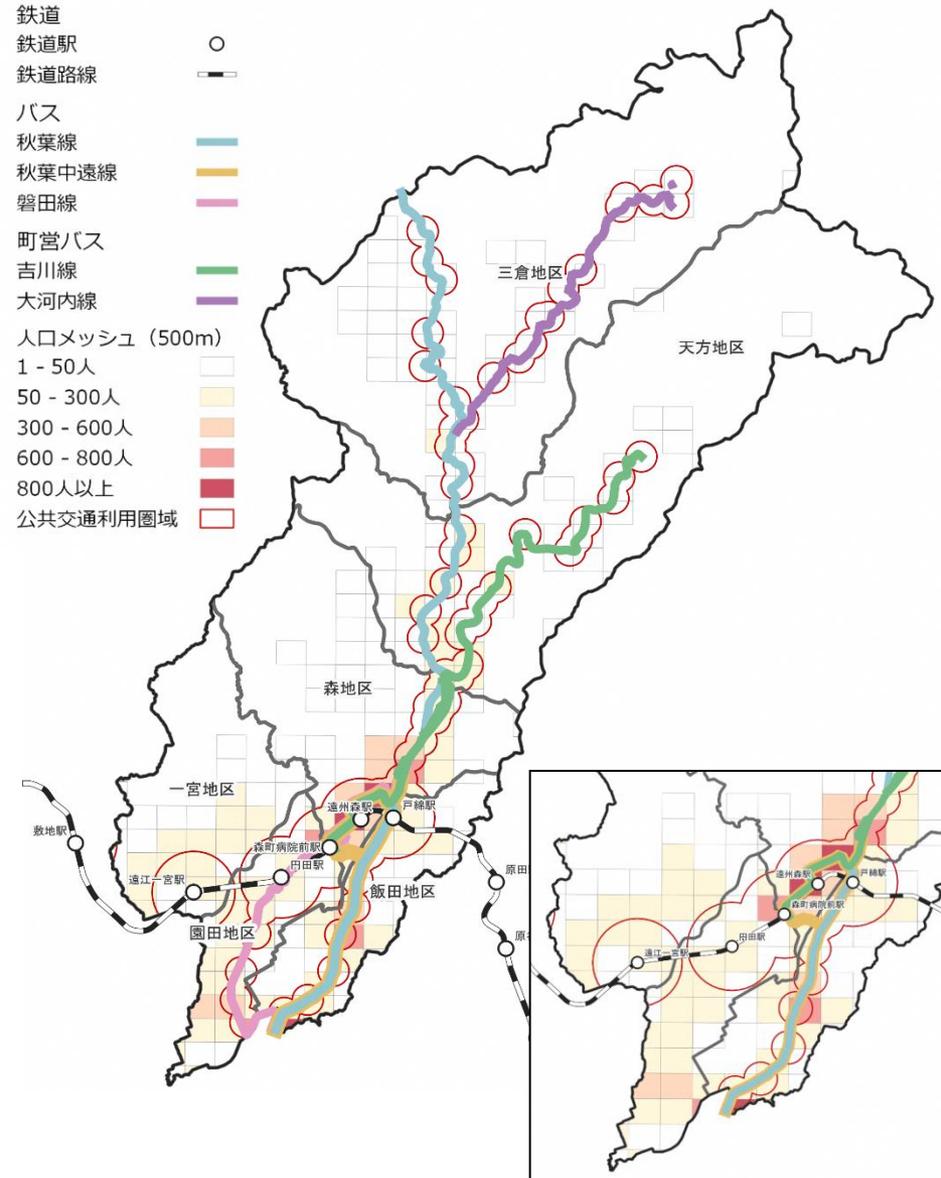


図 平日・日中の公共交通空白地域

実施した調査およびその結果明らかになったこと

事業内容			結果概要
種別	調査目的	調査内容	
町民アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における移動実態の把握 公共交通の利用状況の把握 公共交通全般に対する町民ニーズの把握 地域公共交通の問題点・課題点の整理 	<p>時期： 令和4年11月7日～11月25日</p> <p>対象： 18歳以上の町民1,000人（地区ごとに一定程度抽出）</p> <p>回収：521票 回収率：52.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外出手段はクルマが多く、公共交通を利用する人の割合は少ない 町内公共交通に満足している人は少ないが、特に一宮地区、園田地区で「バス停が近くにない」ことへの不満が高い 買物は町内店舗だけでなく町外店舗（主に袋井市）への移動ニーズが高い 通勤での公共交通の利用は少ない
公共交通利用者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者の移動実態の把握 バス利用者の利用実態の把握 	<p>時期： 令和4年11月7日～11月25日</p> <p>対象： 秋葉バス、町営バス利用者</p> <p>回収：67票</p>	<ul style="list-style-type: none"> 秋葉バスは、近隣市町村の住民による利用が多い 運行本数を重視する意見が多い 始発便よりも終発便の早さに不満が多い
高校生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 高校生の通学における移動実態の把握 高校生の学校生活以外の公共交通の利用実態の把握 	<p>時期： 令和4年11月24日～12月9日</p> <p>対象： 遠江総合高校の生徒556名（1年生190名、2年生163名、3年生203名）</p> <p>回収：348票 回収率：62.6%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 居住地域は森町、袋井市、掛川市、磐田市がほとんどであり、町外から通学する生徒が多い 主な通学手段は自転車である 公共交通の利用は、袋井市からはバス、掛川市からは電車、磐田市からはバスと電車が多い 学校生活以外の移動目的は買い物が大多数を占めている

実施した調査およびその結果明らかになったこと

事業内容			結果概要
種別	調査目的	調査内容	
交通事業者ヒアリング	交通事業者の事業者の課題や森町内でのデマンドタクシーの運行意向の把握	秋葉バスサービス、遠鉄タクシー、掛川タクシー、袋井交通、袋井タクシーの5社に実施	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍前と比べると7割程度の利用 ● 乗務員不足よりも、乗務員の高齢化が深刻な事業者もある。 ● 森町でデマンドタクシーを運行する場合、車両・乗務員ともに専属を希望する事業者がほとんどである。
データの整理・分析	運営主体、路線ごとの利用実態、収支状況の把握	運営主体、路線ごとの利用実態、収支状況の整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 一宮地区・園田地区は公共交通空白地域となっている。 ● 患者バスは年々利用者が減少し、特に一宮線は利用が極めて少ない ● 町営バスは小・中学生の通学手段としての利用が主である ● 磐田線は高校生の通学手段として朝・夕の時間帯のみ運行

調査結果の地域公共交通計画への反映

- 「現行の公共交通サービス」と「町民の居住状況」「町民の移動状況・ニーズ」にミスマッチが生じているため、運行内容の見直し・新たな公共交通サービスを検討し、便利で持続可能な公共交通ネットワークを目指す

【ミスマッチの例】

- ・ 町民が多く居住しているエリアが、公共交通空白地域となっている
- ・ 移動ニーズがあるが公共交通サービスが不十分であるため移動がしにくい
- ・ 公共交通サービスが提供されているが、需要がないため利用が低迷

事業イメージ

- 現況整理で明らかとなった公共交通空白地域（一宮地区、園田地区）を中心として、新たな公共交通（デマンドタクシーなど）の導入を検討する。
※新たな公共交通の運行内容の検討にあたっては交通事業者や庁内関係各課などの関係者と協議を進めながら検討する。
- 町外商業施設までの買い物移動が一定数見られたため、当該施設までのアクセス性の向上を検討する
- 患者バス一宮線の利用者低迷のため、廃止を含めた効率化を検討する。
- 町内を運行している全ての公共交通に対する町負担額が増加傾向にあるため、利用促進を推進する

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和5年1月24日

協議会名： 森町地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【計画の準備・関連計画等の準備】 計画を策定する上で反映すべき、上位計画や関連計画の内容を整理した。	A 事業は適切に実施された。	<p>【補助対象事業名】 地域公共交通調査事業(計画策定事業)</p> <p>【事業内容】 森町地域公共交通計画策定調査業務</p> <p>【実施時期】 R6.6.14 ~ R6.3.31</p> <p>【計画策定に向けた方針】 本調査事業と次年度事業を踏まえて、令和5年度中に計画を策定する予定である。本調査事業により、現状と課題を整理し、基本方針や目標の検討を行っていく。公共交通に関わる様々な主体が相互に協力して、当町にとって持続可能かつ効果的な公共交通網を形成し、公共交通サービスの維持確保を図る。</p>
【現況調査】 地域の特性を整理、公共交通の実態を把握し、分析した。	A 事業は適切に実施された。	
<p>【公共交通に関するニーズ調査、ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民アンケートの実施 18歳以上の町民1,000人対象、回収数:521人(52.1%) ・路線バス利用者アンケート(車内留め置き) 対象路線:秋葉バス路線、町営バス路線 回収数:67人 ・高校生アンケート(静岡県立遠江総合高校生徒) 回収数:348人 ・公共交通事業者ヒアリング タクシー会社4社 路線バス会社1社 	A 事業は適切に実施された。	
【公共交通のあり方等の検討や課題の整理】 森町の地域公共交通における現状及び課題を整理した。	A 事業は適切に実施されている。	
【基本方針・目標の検討】 現状と課題の整理から基本方針や目標の検討を行う。 (第3回森町地域公共交通会議で協議予定)	A 事業は適切に実施されている。	
【会議の開催】 8月:第1回、1月:第2回、3月:第3回(予定)	A 事業は適切に実施されている。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月24日

協議会名:	森町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本町の公共交通は、令和元年度に路線バスの利用者の減少による遠州鉄道(株)の磐田市立病院福田線が撤退し、人口減少等により、路線バス利用者数が今後さらに減少していくと懸念される。一方で、令和2年度及び令和3年度の小中学校統合によるバス通学の開始や高齢化による免許返納等により、地域の足としての役割はさらに大きくなっている。</p> <p>本町では、コンパクトな市街地の形成を図り「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりの展開を目指している。公共交通についても、コンパクトなまちづくりと連携し、本町の公共交通を持続可能なものとし、町民の移動手段を確保していく必要がある。</p> <p>計画策定のため、上位・関連計画等の整理や現況調査、公共交通空白地域への乗合デマンドタクシー等の新たな運行方法の導入検討や地域公共交通の現状・課題を把握するため、公共交通事業者へのヒアリング調査の実施が必要となる。また、町民や路線バス利用者等の移動状況や公共交通に対する課題・ニーズを調査するため、町民アンケート調査や路線バス利用者アンケート調査、高校生アンケート調査の実施が必要となる。</p> <p>本町の公共交通における現状・課題等を整理し、基本方針や目標を検討して計画を策定していく上で、必要な調査事業である。</p>

